

## ハワイ語の感情を表わす状態動詞の叙述用法と限定用法

その他（別言語等）のタイトル	Predicative and attributive use of Hawaiian emotional statives
著者	塩谷 亨
雑誌名	北海道言語文化研究
巻	7
ページ	135-146
発行年	2009-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/702">http://hdl.handle.net/10258/702</a>

## ハワイ語の感情を表わす状態動詞の叙述用法と限定用法

その他（別言語等）のタイトル	Predicative and attributive use of Hawaiian emotional statives
著者	塩谷 亨
雑誌名	北海道言語文化研究
巻	7
ページ	135-146
発行年	2009-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/702">http://hdl.handle.net/10258/702</a>

# ハワイ語の感情を表わす状態動詞の 叙述用法と限定用法\*

塩谷 亨

## Predicative and Attributive Use of Hawaiian Emotional Statives

Toru SHIONOYA

要旨 : Hawaiian emotional statives can express two meanings, i.e. (1) 'somebody has a feeling of fear, happiness, pleasure, sadness, and so on', or (2) 'something (or somebody) is the cause of the feeling of fear, happiness, pleasure, sadness, and so on'. This paper examines examples of the predicative use and the attributive use of seven popular emotional statives and shows that the meaning (1) is expressed mostly by the statives in the predicative use, while the meaning (2) is usually indicated by those in the attributive use.

キーワード : Hawaiian, Emotion, Stative, Attributive Use, Predicative Use

### 1. イントロダクション

#### 1.1. 感情を表わす状態動詞の二つの意味と二つの用法

「悲しい」、「幸せな」、「快い」など様々な感情を表わす表現の大多数は、ハワイ語ではそれぞれ、kaumaha「悲しい」、hau'oli「幸福な」、'olu'olu「快い」のような、状態動詞と呼ばれる語類に属す単語によってなされる。<sup>1</sup>このような状態動詞の多くは、以下のように意味が異なる二通りの用法で用いられる場合がある。

(1) ... akahi nō a 'olu'olu iho la 'o Kauhiakama...

はじめて 快い DR DM NC Kauhiakama<sup>2</sup>

'はじめて Kauhiakama はほっとした' (Fornander 1916-1917: 351)

(2) ...a ua 'olu'olu ka noho 'ana, ....

そして TA 快い AR 暮らす NM

'...そして暮らしは快いものになり、... ' (Fornander 1918-1919: 713)

(1)では、主語である「Kauhiakama」が状態動詞‘olu‘olu「快い」で表される感情を抱いていることを意味しているのに対し、(2)では、主語である「暮らし」が状態動詞‘olu‘olu「快い」で表わされる状態を引き起こす原因となっていることを意味している。(1)と(2)の間には文型上も語形上も違いは見られず、同一の形の状態動詞‘olu‘olu「快い」が上記の二通りの意味を表わしている。感情を表わす状態動詞が表わし得る二つの意味については以下のように整理できる。

(3) 感情を表わす状態動詞が持つ二つの意味

- (i) ある人が状態動詞によって示される感情を抱いている
- (ii) あるものが状態動詞によって示される感情を引き起こす原因となっている

上記(1)と(2)では状態動詞は文の述語を形成している、すなわち叙述用法で用いられている。状態動詞は叙述用法以外に、名詞を後置修飾する限定用法でも用いられる。

- (4) ...a he mea ‘olu‘olu ia i kō ke Ali‘i mana‘o  
and NC-AR<sup>3</sup> もの 快い それ ~に ~の AR 酋長 気持ち  
'それは酋長の気持ちの中で快いものになった(=酋長はそれを快く思った)'  
(Beckwith 1911-2:439)

(4)では、状態動詞‘olu‘olu「快い」が名詞 mea「もの/ひと」を後置修飾している。叙述用法の場合は、例(1)と(2)に見られるように二通りの意味があった。限定用法の状態動詞についても同じように二通りの意味があるのだろうか。

Wilson (1976:127)は限定用法の動詞には二通りの解釈があると指摘し、例えば状態動詞 pilikia「面倒な」が名詞 mea「もの/ひと」を後置修飾する場合の意味として以下の二通りをあげている。

(5) (mea) pilikia の持つ二つの意味 (Wilson 1976:127-8)

- (i) 'one who is in trouble'
- (ii) 'source of trouble'

前述の(3)の(i)と(ii)はそれぞれ、(5)の(i)と(ii)に対応する。

もし、感情を表わす状態動詞の叙述用法と限定用法のそれぞれについて上記(3)の(i)と(ii)の二通りの意味があるとすると、以下のような合計4通りの意味・用法が仮定される。

表 1 感情を表わす状態動詞に仮定される四つの用法

i-p	「ある人が状態動詞によって示される感情を抱いている」ことを意味し、叙述用法で用いられる場合
i-a	「ある人が状態動詞によって示される感情を抱いている」ことを意味し、限定用法で用いられる場合
ii-p	「あるものが状態動詞によって示される感情を引き起こす原因となっている」ことを意味し、叙述用法で用いられる場合
ii-a	「あるものが状態動詞によって示される感情を引き起こす原因となっている」ことを意味し、限定用法で用いられる場合

以下、便宜上、表 1 左欄に示したとおり、上記(3)での(i)と(ii)の分類に加えて、叙述用法には-p、限定用法には-a の記号を付加して、それぞれの用法を(i-p)、(i-a)、(ii-p)、(ii-a)のように分類して呼ぶこととする。このように、(i-p)、(i-a)、(ii-p)、(ii-a)の合計四つの用法が仮定されるわけだが、実際のハワイ語の例を見ていると、上記のそれぞれの用法での用いられ方の頻度には大きな違いがあることがわかる。

## 1.2. 本稿の目的と分析

本稿では、ハワイ語の様々な感情を表わす状態動詞の中でも使用頻度が高い 7 つの語を選び、ハワイ語のいろいろなジャンルの文献から収集したデータを利用して、それぞれの状態動詞について、叙述用法及び限定用法で使われる場合に、上記(3)の(i)と(ii)のどちらの意味を表わしているのか分析する。そして、(i-p)、(i-a)、(ii-p)、(ii-a)の四つの用法のそれぞれで用いられる頻度にどのような差異或いは偏りが見られるのか示すことを目的とする。

今回分析した感情を表わす 7 つの状態動詞は、'olu'olu「快い、愉快的」、'oli'oli「嬉しい」、le'ale'a「楽しい」、hau'oli「幸せな」、kaumaha「悲しい」、pū'iwa「驚いた」、weliweli「恐い」である。

今回の分析では、状態動詞が名詞として用いられているもの、副詞用法（他の動詞を修飾して）で用いられているものは分析対象から除外し、動詞句として述語を形成しているもの、名詞を修飾しているものの二つを分析対象とした。また、慣用句の中で用いられているものも除外した。

状態動詞によっては、動詞句として述語を形成する場合、或いは、名詞を修飾する場合であっても、意味的に(i-p)、(i-a)、(ii-p)、(ii-a)のいずれにも該当しないケースが存在する。そのような除外する事例については、その都度指摘する。

感情を表わす状態動詞は名詞を修飾する関係節を形成する場合もある。

- (6) 'o ka mea a ke Ali'i e le'ale'a ai,.....  
NC AR もの ~の AR 酋長 TA 楽しい DM  
'酋長が(それによって)楽しくなるものだ' (Beckwith 1911-2: 547)

(6)では le'ale'a は関係節 e le'ale'a ai 「(それによって) 楽しくなる」の中の述語動詞句を形成している。このような場合は、主節で述語動詞句を成す場合と同様に、述語動詞句としてカウントする。

感情を抱いたり、抱かせられたりするの通常は人であるが、ハワイ語では、感情を表わす状態動詞が、人の代わりに mana'o 「気持ち」や na'au 「心」を主語にとする述語動詞句に用いられたり、mana'o や na'au を修飾するのに用いられたりすることがある。このような場合には、解釈上、mana'o 「気持ち」や na'au 「心」がその所有者である人と置き換え可能な場合にのみカウントの対象とする。例えば、つぎのような例文は主語が人ではないが(i-p)の例としてカウントする。

- (7) ...ua 'olu'olu loa ka mana'o o ke'lii 'o Umi...  
TA 快い とても AR 気持ち ~の AR-酋長 NC Umi  
'...酋長ウミの気持ちはとても快くなった...'(Fornander 1916-1917: 253)

(7)では、ka mana'o o ke'lii 'o Umi 「酋長 Umi の気持ち」を「酋長 Umi」と置き換えて「酋長 Umi が快くなった」と解釈することが出来る。

今回用いたメインの例文データのソースは、Hawaiian laws 1841-1842 (1991), Na haiao (1841), Bacon et al. (1995), Beckwith (1911-1912), Beckwith (1932), Fornander (1916-17), Fornander (1918-19), Kahiolo (1974), Malo (1987), Mookini (1985), Nakoa (1979), Pukui (1983), Pukui et al. (1995), 及びハワイ語新聞 Ka Hoku o Hawaii, Nupepa Kuokoa, Ke Kumu Kamalii 等から収集したいくつかの記事と Na Haiao(1841)の2頁から41頁である。ただし、hau'oli 「幸せな」は例文が少なかったため、追加データとして Ho'oilina (Vol.1-5), Hawaiian Phrase Book (n.s.), Kahaulelio et al. (2005), Licayanet al. (2007), Maunupau (1998) をソースに用いた。

## 2. 分析

### 2.1. 'olu'olu 「快い」

既に例(1)と(2)で示したように、叙述用法では(i-p)と(ii-p)の二通りの用法が見られる。(i-p)の用例が30例、(ii-p)の用例も30例であった。

- (8)=(1) ... akahi nō a 'olu'olu iho la 'o Kauhiakama...  
はじめて 快い DR DM NC Kauhiakama<sup>2</sup>  
'はじめて Kauhiakama はほっとした'(Fornander 1916-1917: 351)

(9)=(2) ...a ua 'olu'olu ka noho 'ana, ....

そして TA 快い AR 暮らす NM

'...そして暮らしは快いものになり、...'(Fornander 1918-1919: 713)

名詞を後置修飾する限定用法で用いられている例は合計 34 例得られたが、その全てが (ii-a) の例であった。

(10)=(4) ...a he mea 'olu'olu ia i kō ke Ali'i mana'o

and NC-AR もの 快い それ ~に ~の AR 酋長 気持ち

'それは酋長の気持ちの中で快いものになった(=酋長はそれを快く思った)'

(Beckwith 1911-2:439)

限定用法の例の中に、'olu'olu「快い」が時間を表わす名詞を修飾する例が得られた。

(11)kō lāua mau minute 'olu'olu

~の 彼ら PL 分 快い

'彼らが至福である時' (Beckwith 1911-2:345)

(11)では、'olu'olu「快い」が名詞 minute「分」を修飾して、単純に「至福の時」のような意味を表しているように見えるが、実際には kō lāua「彼らの」という所有形が状態動詞'olu'olu「快い」の主語を表わしていて、「彼らが至福である時」という関係節の縮約形として分析されるものである。<sup>4</sup>その意味では、述語動詞として用いられている叙述用法(1-p)に本来属すものである。(11)の場合は関係節としての認定は比較的容易であるが、必ずしもそうでない場合も多いので、今回は同様の事例はカウントの対象外とした。

状態動詞'olu'oluは「快い」という感情を表わす意味のほか他に、「優しい」という性質を表わす意味でも使われる。しかしながら、「優しい」という性質は他人に「快さ」を引き起こすものであるため、両者の区別を厳密につけることは難しい。今回得た例で、(ii-p)の全 30 例中の 11 例、(ii-a)の全 34 例中の 14 例は、は「快さ」という感情を表わす状態動詞としての分析以外に、「優しい」という人の性質を表す状態動詞としての分析も可能なものである。

(12) He lāhui aloha, he 'olu'olu, he lokomaika'i, ....

NC-AR 人民 愛すべき NC-AR 優しい NC-AR 親切的な

'愛すべき人々で、優しくて、親切で、.....'(Beckwith 1932:75)

(12)の'olu'oluは「快い」という感情を他人に引き起こす(ii-p)とも解釈することも出来そうだが、より自然な解釈としては、「優しい」という性質を表わすとも分析できる。同様

に「優しい」という性質を表わしていると解釈できる例を除外すると、(i-p)の例が 30 例、(ii-p)の例が 19 例、(i-a)の例が 0 例、(ii-a)の例が 20 例となる。

## 2.2. ‘oli‘oli 「嬉しい」

今回得られた叙述用法の例 27 例全てが(i-p)の例であった。

(13) Inā hele ke kahu a ho‘i mai, ‘oli‘oli loa ka ‘īlio,...

もし行く AR 飼主 そして 戻る DR 嬉しい ととも AR 犬

'もし飼主が行ってそして戻ってくると、犬にはとても嬉しい'(Mookini 1985:125)

限定用法では(ii-a)の例のみ 7 例が得られた。

(14) he mea ‘oli‘oli ia iā Aiwohikupua.

NC-AR もの 嬉しいそれ ～に Aiwohikupua

'それは Aiwohikupua に嬉しいものである'(Beckwith 1911-2:459)

また、‘oli‘oli 「嬉しい」の限定用法として、maka 「顔」、leo 「声」を修飾する例が合計 3 例得られた。これらは、「嬉しそうな顔」、「嬉しそうな声」のような意味で使われていて、(i-a)とも(ii-a)とも異なるため、カウントから除外した。

(15) ... me ka maka ‘oli‘oli

～で AR 顔 嬉しい

'嬉しい顔で'(Beckwith 1911-2:363)

もう一つ、ohana 「家族」を修飾している例が 1 例あった。「家族」を人の集合体と考えると、(i-a)の例として分析することが可能と思われる。

(16)... a ua kapa ‘ia ia po‘e ‘o ka ‘Ohana ‘Oli‘oli.

そして TA 呼ぶ PS その 者たち NC AR 家族 嬉しい

'そしてその者たちは嬉しい家族と呼ばれる'(Kuokoa 1863/3/21:1)

## 2.3. le‘ale‘a 「楽しい」

今回得られた叙述用法の例中、(i-p)は 21 例で、(ii-p)が 4 例であった。(i-p)の例が(17)、(ii-p)の例が(18)である。

(17) i mea e le‘ale‘a ai lākou

～として もの TA 楽しい DM 彼ら

'彼らが楽しくなるものとして'(Mookini 1985:39)



- (18) ...le'ale'a ka noho a Kahikimauolina.  
楽しい AR 暮らし ~の Kahikimauolina  
'Kahikimauolina の生活は楽しい' (Kahiolo 1978:167)

限定用法では (ii-a)のみ 76 例が得られた。

- (19) ua lilo iho la nō ia i mea le'ale'a no ke Ali'i  
TA なる DR DM EP それ ~に もの 楽しい ~にとって AR 酋長  
'それは酋長にとって楽しいものなった' (Beckwith 1911-2:433)

le'ale'a「楽しい」限定用法の例の中にも、(11)の 'olu'olu「快い」の例と同様に時間を表わす名詞を修飾している例が得られた。

- (20) kō lāua manawa le'ale'a  
~の 彼ら 時 楽しい  
'彼らの楽しい時' (Beckwith 1911-2:491)

(20)も (11)と同様の構造として分析できる。(11)と同様の理由で今回はカウント外とする。

#### 2.4. hau'oli 「幸せな」

今回得られた叙述用法の全 24 例全てが(i-p)の用例であった。

- (21) A ua hau'oli nō ho'i lākou i ka lokomaika'i o ke kaikamahine iā ia.  
そして TA 幸せな EP 彼ら ~に AR 親切 ~の AR 娘 ~に彼女  
'彼らは娘の彼女への親切のおかげでとても幸せであった' (Pukui & Green 1995: 114)

限定用法では、(ii-a)のみ 3 例が得られた。(i-a)の例は得られなかった。

- (22) me ka pane pū 'ana mai i ka nūhou hau'oli,  
~と AR 答える 一緒に NM DR AC AR 知らせ幸せな  
'そして嬉しい知らせを叫んだ' (Maunupau 1998:15)

#### 2.5. kaumaha 「悲しい」

状態動詞 kaumaha の意味は(Pukui and Elbert 1986)によれば、基本的な意味は「重い」だが、それが比喩的に「悲しい」という意味で使われるとされている。今回は、「悲しい」という意味で用いられている例文のみ分析対象とする。今回得られた kaumaha 「悲しい」の叙述用法の用例 10 例全てが(i-p)の例であった。

- (23) Inā i kaumaha nui kekahi kāne i kāna wahine no kona moe kolohe ‘ana,  
もし TA 悲しい 大いにある 夫 ～に 彼の 妻 ～のために彼女の 浮気 NM  
'もしある夫がその妻の浮気でおおいに悲しんだなら'

(Hawaiian Laws 1842: Mokuna X.XII.7)

この他、叙述用法の中で、人ではなく、その人の na‘au 「心」や mana‘o 「気持ち」が主語になっている例が合計 9 例得られた。

- (24) kaumaha loa iho la ka na‘au o Malaekahana,  
悲しい/重い ととも DR DM AR 心 ～の Malaekahana  
'Malaekahana の心はとても悲しかった/重かった' (Beckwith 1911-2:347)

(24)の kaumaha について、「悲しい」という解釈の他に、その元々の意味「重い」を意味しているという解釈も可能と思われる。「重い」と解釈すべきか、そこから派生した比喩的な意味「悲しい」と解釈すべきか、明確な判断が難しいこともあり、これらの例は(ii-p)の例の中には含めなかった。

限定用法の例としては(ii-a)のみ 16 例が得られた。

- (25) he mea kaumaha kēia ‘ōlelo a Waka imua ona.  
NC-AR もの 悲しい この 言葉 ～の Waka ～の前に 彼の  
'この Waka の彼への言葉は悲しくさせるものであった' (Beckwith 1911-2:361)

また、限定用法においても、(24)と同じように、その人ではなく、その人の na‘au 「心」や mana‘o 「気持ち」を修飾している例が合計 10 例得られたが、(24)で示したのと同じ理由から、これらの例についても、分析の対象外とした。

- (26) ua ku‘u ‘ia ka na‘au kaumaha ...  
TA 開放する PS AR 心 悲しい/重い  
'悲しい/重い気持ちが開放された...'(Beckwith 1911-2:431)

## 2.6. pū‘iwa 「驚いた」

今回得られた pū‘iwa 「驚いた」の叙述用法の用例 18 例全てが(i-p)の例であった。

- (27) Ua pū‘iwa nā kaikamāhine i ka ‘ike ‘ana i...  
TA 驚いて AR 娘 ～に AR 見る NM AC  
'...を見て娘たちは驚いた' (Pukui & Green 1995:127)

限定用法では、(ii-a)のみが2例得られた。(i-a)の例は得られなかった。

- (28) ..., he        mea pū'iwa    loa        ia        nona, ....  
NC-AR もの 驚いた とても それ 彼にとって  
'それは彼にとってとても驚くべきことであった'(Fornander 1916-1917: 265)

## 2.7. weliweli 「恐い」

今回得られた weliweli の叙述用法の用例全8例中の7例が(i-p)の例であった。

- (29) ua    weliweli mai la    kō        Lonoikamakahiki    po'e    kaua,....  
TA 恐い DR DM ~の Lonoikamakahiki 人々 戦い  
'Lonoikamakahiki の戦士達は恐くなった'(Fornander 1916-1917 : 34)

(ii-p)の例としては1例のみ見つかった。

- (30) He    weliweli.  
TA<sup>5</sup> 恐ろしい  
'(それらの酋長は)恐ろしい。'(Beckwith 1932:13)

(30)の He weilweli.だけでは良く分からないが、前の部分に「これらの支配者である酋長はその大きな権力と神聖不可侵さのため神の類に入れられる」とあり、「それらの酋長達が恐ろしい」、すなわち、「人々に恐怖を抱かせる原因となるものである」、と解釈することが出来る。

名詞を後置修飾している限定用法で用いられている例は全20例であったが、その全てが(ii-a)の例であった。(i-a)の例は見つからなかった。

- (31) Ka hale weliweli o nā ali'i.  
AR 家 恐ろしい ~の AR-PL 酋長  
'酋長達の恐ろしい家'(Pukui 1983: 141)

## 3. まとめ

7つの感情を表わす状態動詞の用例について、(i-p)、(ii-p)、(i-a)、(ii-a)の四つの意味・用法による分類の結果は以下ようになる。表中では、各動詞について、叙述用法と限定用法それぞれにおいて、今回頻度が多かった方を下線で示した。

表 2：感情を表わす状態動詞の 4 用法

	i-p	ii-p	i-a	ii-a
‘olu‘olu 快い、愉快的な	<u>30</u>	19	0	<u>20</u>
‘oli‘oli 嬉しい	<u>27</u>	0	1	<u>7</u>
le‘ale‘a 楽しい	<u>21</u>	4	0	<u>76</u>
hau‘oli 幸せな	<u>24</u>	0	0	<u>3</u>
kaumaha 悲しい	<u>10</u>	0	0	<u>16</u>
pū‘iwa 驚いた	<u>18</u>	0	0	<u>2</u>
weliweli 怖い	<u>7</u>	1	0	<u>20</u>

このように、叙述用法と限定用法との間で大きな傾向の違いが見られた。叙述用法では(i-p)、すなわち「ある人が状態動詞によって示される感情を抱いている」という意味で用いられる場合がより多いのに対して、限定用法では、(ii-a)、すなわち「あるものが状態動詞によって示される感情を引き起こす原因となっている」という意味で用いられる場合が主である、という傾向が強く表れている。前の節での分析において、様々な理由から、今回のカウントの対象からはずされた例文の扱い方によっては、表 2 の結果に若干の変動がある可能性があるのも事実だが、それにしても、表 2 が示す全体的な結果を根本的に揺るがす程の数にはならないと考えられる。

今回は、状態動詞を分析対象としたが、感情を表わす他動詞の中にも、今回分析した感情を表す 7 つの状態動詞と類似した傾向を持つものがある。例えば、maka‘u「怖い」について、今回使用したメインのデータソースにより分析を試みた結果、やはり、叙述用法では(i-p)の意味で、限定用法では(ii-a)の意味で用いられていた。(ii-p)や(i-a)の例と確認できる例は見つからなかった。<sup>6</sup>今回扱わなかった他の感情を表わす状態動詞や、感情を表わす自動詞や他動詞の分析は今後の課題として残るものである。

今回の分析によって、感情の状態動詞が表す二つの意味について、叙述用法と限定用法との間で大きな偏りがあることが示された。大まかに言うと、叙述用法は「ある人が状態動詞によって示される感情を抱いている」の意味を、限定用法は「あるものが状態動詞によって示される感情を引き起こす原因となっている」という意味を担うことで、いわば、分業しているような形となっている。この意味の区分は、ちょうど英語の過去分詞と現在分詞の使い分けに類似している。例えば、‘oli‘oli「嬉しい」を例にとると、英語の pleased「喜んでいる」が(i)の用法に、pleasing「喜びを与える」が(ii)の用法にそれぞれ相当する。ただし、ハワイ語の場合は、語形ではなく、文構造の違いにそれが反映しているという点が異なっている。

日本語でも、感情を表わす形容詞等の用法や解釈には偏りが見られる。例えば、「私は怖い」だと、通常は「私は怖いという感情を抱いている」という解釈が一般的だが、「彼は怖い人だ」だと、通常は「彼は他人に怖いという感情を引き起こす原因となっている」

という解釈が一般的である。これは、ちょうど、ハワイ語の状態動詞 *weliweli* 「恐い」が、叙述用法だと「恐いという感情を抱いている」(i-p)の意味で、限定用法だと「恐いと言う感情を引き起こす原因となっている」(ii-a)の意味で用いられるのが一般的であるという事実と対応している。

このように、今回取り上げた現象の中には、他の言語とも共通した普遍的な傾向のようなものがある。それについては、更なる研究を待ちたい。

### 謝辞

\* 貴重なコメントをいただいた査読者の方に、謝意を申し上げたい。尚、今回分析に用いたデータは文部科学省科学研究費補助金奨励研究 (A) 「名詞文・数詞文等の基本構文に関する諸問題解明のためのポリネシア諸語間の対照研究」(課題番号 12710273)の助成により収集したものである。

### 注

<sup>1</sup> 感情表現には、他動詞 (例 *maka'u* 「恐れる」) や自動詞 (例 *huhū* 「怒る」) によって表わされるものもある。

<sup>2</sup> 本稿で使われる略号は以下のとおりである。AR(article)、DM(demonstrative)、DR(directional)、EP(emphasis)、NC(neutral case marker)、NM(nominalizer)、PS(passive)、TA(tense / aspect marker)。

<sup>3</sup> *he* についてはいろいろな分析があるが、本稿では Shionoya (forthcoming)での分析に従い、名詞句の冒頭に使われる *he* を neutral case marker と不定冠詞の機能が融合したものとして、また、動詞句の冒頭に使われる *he* を属性を表わすテンス・アスペクトマーカとして分析する。

<sup>4</sup> Wilson (1976:122)参照。

<sup>5</sup> 上記注3参照

<sup>6</sup> 状態動詞 *maka'u* の限定用法の用例の中には、「恐い」ではなく「臆病な」という意味を表わす用例がいくつか見られた。

*Pēlā e pa'a ai iā ia ka bufalo nui, ka dia maka'u...*

そのように TA 捕まる DM DT それ AR バッファロー 大きな AR 鹿 臆病な..

'そのように、大きなバッファローや臆病な鹿がそれに捕まる...'(Mookini 1985:71)

これらの例では「恐い」という感情を表わすのではなく、「臆病な」という性質を表わす用法で用いられているため、今回の分析からは除外した。

### 参考文献

s.n. (1994) *Hawaiian Laws 1841-1842*. reprinted by Ted Adameck.

s.n. (1991) *Hawaiian Phrase Book*. Reprint edition. Vermont: Charles E. Tuttle

s.n. (1841) *Na haiiao*. Honolulu: Mission Press.

- Bacon P. Namaka and Nathan Napoka. (1995) *Na Mele Welo*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Beckwith, Martha W. (1911-1912) *The Hawaiian Romance of Laieikawai*. U.S. Bureau of American Ethnology, Thirty-third Annual Report, 285-677. Washington D.C.
- Beckwith, Martha W. (1932) *Kepekino's Tradition of Hawaii*. Honolulu: Bishop Museum.
- Fornander, Abraham. (1916-17). *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. IV. Honolulu: Bishop Museum Press
- Fornander, Abraham. (1918-19) *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. V. Honolulu: Bishop Museum Press
- Ho'oilina*, Journal of Hawaiian Language Sources. (2002-6) Vol.1-5. Kamehameha Schools.
- Kahalelio, A. David, Puakea Nogelmeier, and Daniel Kahalelio. (2005) *Ka Oihana Lawaia*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Kahiolo, G. W. (1974) *He Moololo No Kamapuaa*. Honolulu: University of Hawaii.
- Ka Hoku o Hawaii*. Hilo. (Hawaiian Newspaper)
- Ka Nupepa Kuokoa*. Honolulu. (Hawaiian Newspaper)
- Ke Kumu Kamalii*. Honolulu. (Hawaiian Newspaper)
- Licayan, Emalia, Virginia Nizo, and Elama Kanahale. (2007) *Aloha Niihau*. Honolulu: Island Heritage.
- Malo, Davida. (1987) *Ka Moololo Hawaii*. Honolulu: The Folk Press.
- Maunupau, Tomas K. (1998) *Huakai Makaikaia Kaupo, Maui*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Mookini, Esther T. (1985) *O na Holoholona Wawae Eha o ka Lama Hawaii*. Honolulu: Bamboo Ridge Press.
- Nakoa, Sarah. (1979) *Lei Momi o Ewa*. Honolulu: 'Ahahui 'Ōlelo Hawai'i.
- Pukui, Mary K. (1983) *'Ōlelo No 'eau*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Pukui, Mary K. and Samuel H. Elbert. (1986) *Hawaiian Dictionary*, Revised and enlarged edition. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Pukui, Mary K. and Laura C.S. Green. (1995) *Folktales of Hawaii*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Shionoya, Toru. (forthcoming) *Hawaiian he as a Prenominal / Preverbal Particle*.
- Wilson, William H. (1976) *The o/a Possessives Markers in Hawaiian*. MA dissertation, University of Hawaii.

執筆者紹介

所属：共通講座

Email： shionoya @mmm.muroran-it.ac.jp